

後の活動方針と新クラブ設立への取り組みに関して熱い思いを込めた協力要請がございました。

今回の会合は各委員の初顔合わせの会でもありましたが、「新クラブ設立について」への取り組みというテーマで和気藹々の中でも活発な意見交換が行われました。その意見交換の雰囲気では地区拡大の状況は厳しく、新クラブ設立が容易に出来るものではないと、私にも感じられましたが、長谷川委員長を中心に渡辺会員増強委員長と共に、出席者一同は新クラブ設立に向けて頑張ろうとの強い決意でまとまりました。

まず何処の地域にアプローチするか、その新クラブの中心になるチャーターメンバーの人選が検討されましたが、人選が最大の課題との認識で一致し、かなり熱心な討議が交わされました。

新クラブ設立について委員会としては何を於いても2560地区のクラブと会員の理解協力及びサポートが不可欠と認識しており、今後その働きかけをしていかなければと考えております。

しかしながら、我が三条北RCに於いては中條年度に三条東RCの創立に大きく寄与した輝かしい実績と経験があります。ここで今一度、ロータリーの基本的課題であります地区組織の拡大と強化を図るべく、高い見地に立ち新クラブ設立にご理解頂き、新クラブ設立への協力要請がございましたら、石川友意会長はじめ北ロータリークラブのご支援を賜りますようお願い致します。

馬場年度で、何時 何処で、どんなユニークで素晴らしい58番目のクラブが誕生するのか、その実現を皆様と共に大いに楽しみたいと思います。

地区拡大委員としてスタートにあたり報告とお願いをさせて頂きました。

地区クラブ奉仕・広報活性化委員

駒形 実会員



2560地区 RC の現状と課題

当地区の会員増強数は全国的に見て、昨年の

中條年度が全国1位、今年の渡辺年度が1月現在

51名増の全国でひと桁の順位になっております。

地区全体では増加傾向でクラブ活性化の基本的条件は順調に推移していると言えるのではないのでしょうか。

しかしそれだけでは十分とは言えません。まだ約3分の1（約33%）の19クラブが30名未満であり、30〜40名未満は16クラブ（約25%）あります。会員数の少ない60%近いクラブにとって、各クラブの奉仕活動を活発に実行するには十分でないのが現状かと思われます。

さらに、会員増強を推進するのは勿論ですが、それだけで解決するかといえば、否でしょう。会員増強活動は日本及び先進国の社会環境の障壁が年々高くなる傾向にある現状では、大変な労力が必要になり厳しい環境になると思われます。そのような趨勢の中で、クラブ活性化を内部マネジメントシステムの効率化から再構築しようと言う指針が国際RIから'05に発表されたのがCLP（クラブ・リーダーシップ・プラン）のようです。

当2560地区も渡辺年度からCLP導入の啓蒙活動を行い、各クラブに最適なシステムの再構築、再考を促し、クラブ活性化を内部から検証、実施していただくため馬場年度も継続して取り組むことになりました。全会員と共にクラブ活性化へ各クラブの内部システムの見直し、検証、実施を推進する予定です。

馬場年度の地区方針とクラブ奉仕・広報・活性化委員会の活動方針は下記のようになりました。

地区方針:<ロータリーで人生を高めよう!愛する地区を元気にするために、今日こそ学び、行動しよう!>

当委員会重点活動項目

- 1)CLP 導入セミナーの開催、CLP 導入相談窓口の設置

導入クラブ、予定クラブの検討、発表会等の勉強会、相談

- 2)日本のこころの教育事業の連絡調整

『日本の心の教育』事業推進、連絡調整

- 3)継続できる地区ホームページの構築と会員相互ネットワークの確立、それに伴う勉強会:

クラブ活性化委員/木宮委員長専任

(発表済み)

地区のHP構築で各クラブの活動、連絡等情報の共有化によるクラブ活性化

- 4)月信の電子化推進事業:

クラブ活性化委員/木宮委員長専任

月信の電子化と情報共有化

- 5)地区、各クラブの活動をマスコミに取り上げてもらうための協力支援

マスメディア、地区HPを活用した広報支援活動

- 6)オン・ツー・バーミンガム世界大会の参加募集とプラン提案:

オン・ツー・バーミンガム委員/西巻委員長

専任

目標80名、英国中西部の金物産業の盛んな工業都市/人口100万人

以上、馬場年度における当委員会の主な活動内容です。

オン・ツー・バーミンガム委員

斎藤 正会員



未だ、具体的な活動は全くない状態なので何をお話したらよいか困っております。

今日はどのような委員会かと言うことを知っていた

だこうと思います。

R I 年次国際大会について手続き要覧では以下の様に記されています。R I 理事会の決定する時と場所において会計年度の最後の3ヶ月間(4月、5月、6月)に開催されるものとし、その主たる目的は国際レベルにおいて、全ロータリアン、特に次期クラブ会長、ガバナーエレクト、R I およびロータリークラブの次期役員を、鼓舞、激励し、かつ情報を与えることによって、地区レベルとクラブレベルにおけるロータリーの発展を活発に推進しようとする意欲を起こさせることである。年次大会は、また、年一度の会合であり、連合体の業務を執り行う。国際大会はロータリー家族の世界的会合であるから、国際大会本来の目的を減じない限り、社交および余興の催しでロータリーの親睦を祝うことは妥当である。

国際大会の歴史を振り返ると、1910年シカゴ(登録者数60人)で第1回が開催されてから今日まで続いているわけです。

因みに日本では1961年(東京23,366人)1978年(東京39,834人)2004年(大阪45,381人)の3回開催されています。

馬場年度での開催地は、英国イングランド中西部の工業都市で、金物産業が盛んな人口100万人の大都市バーミンガムです。

第2560地区からの参加目標は80名です。まだ日程費用等詳細は決まっていますが大きな目標だけに1年余ある時間のなかで地区大会、地区委員会セミナー等で参加要請をしてゆく計画ですが、困難が予想されます。北クラブの会員皆さんの特段のご協力をお願い申しあげます。

地区ロータリー財団・奨学委員

星野義男会員

